

ティーンエイジャーの可能表現

——着^キレル・出^デレルなどの言いかたについて、

下接語からの検討を目的にした小さな調査から——

岡 崎 和 夫

1

このごろは、「来^キレル」や「見^ミレル」「食^クベレル」など、カ行変格活用や一段活用の動詞に助動詞「レル」のついた可能の言いかたがずいぶん多くなつて来た。筆者は以前、こうした、いわば、破格^{ハカク}の可能表現について調査を行い、一段活用の動詞のなかにあつて、どういった語の場合にこの種の表現が用いられやすく、また用いられにくいといった点を中心に、かなり特徴的な傾向の窺われることを報告したことがある（『言語生活』三四〇号、昭和五十五年四月、筑摩書房）。

その際には、……レルという言いかたの用いられやすい場合として、その順位を、

・未然形の一音節である動詞（語幹と活用語尾の区別のない動詞）にあつて上位を占めるのは、上一段活用に属するいくつかの語であつて、のちに、カ変・下一段のような順でこれに続くこと

・また、未然形が二音節以上の語（語幹と活用語尾の別のある語）にあつても、やはり上一段活用の語が優勢で、

下一段活用の語の場合には、この種の表現はなかなか用いられにくいこと。特に語幹が三音節以上にわたる語の場合には用いられにくいこと

といったように捉えておいたが、こういった問題については、今後、これをひとつの手掛りとして、いろいろな観点から調査と分析とを続けていかなければならないと考えていた。そして、今日までに何回かこの種の調査を重ねて来たが、小稿では、このうちのひとつ、……レルの言いかたの用いられやすさ・用いられにくさが、それに下接する表現（助詞・助動詞）のちがいにによって認められるものかどうか、認められるとすればどの程度の差かといった点を中心に考えてみようとするものである。

調査は、前の稿で上位にランクされた語のなから、見ル・下リル・寝ル・起キル・出ル・着ル・来ルの七語を選んで文例を創作し、つぎのような要領で行った。

2

調査は、昭和五十四年の五月から六月にかけて行った。

〔創作文例〕

- | | | |
|---|--|---|
| <p>3</p> <p>b a</p> <p>こんなうるさくちゃあとても寝れないね。</p> <p>寝られ</p> | <p>2</p> <p>b a</p> <p>そんな奥のほうにいと下りれないよ。</p> <p>下りられ</p> | <p>1</p> <p>b a</p> <p>その本はこの図書館でも簡単には見れないよ。</p> <p>見られ</p> |
|---|--|---|

12	11	10	9	8	7	6	5	4
<u>b</u> <u>a</u>	<u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>
それで、きのうの会には出れたの？ 出られ	こんなに早くよく起きられたね。 起きられ	あんなにうるさい所でよく寝れたね。 寝られ	あんな奥のほうにいてよく下りれたね。 下りられ	その本なら図書館ですぐ見れたよ。 見られ	そんなに早くちゃ誰も来れないよ。 来られ	このサイズじゃあきつと着れないよ。 着られ	残念ながら今日は出れないよ。 出られ	そんな早くにはとても起きれないや。 起きられ

21	20	19	18	17	16	15	14	13
<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>
あさって、もう一度来れますか？ 来られ	これ、いつごろまで着れますか？ 着られ	明日七時半に出れますか？ 出られ	毎日この時刻に起きれますか？ 起きられ	どんなうるさい所でも寝れますか？ 寝られ	この道から山小屋の方へ下りれますか？ 下りられ	その本、今すぐ見れますか？ 見られ	ストなのによく来れたね。 来られ	小さめだったけど、ちゃんと着れたよ。 着られ

30	29	28	27	26	25	24	23	22
b a	b a	b a	b a	b a	b a	b a	b a	b a
ドアのそばですぐ下りれば間に合ったんだ。 下りられ	図書館ですぐに見ればいいんだがなあ。 見られ	ストがあっても来れると思います。 来られ	S^{エス}サイズでもちゃんと着れると思う。 着られ	ここ一週間ずっと出れると思うのですが。 出られ	目覚し時計さえあればどんなに早くても起きれると思う。 起きられ	どんなにうるさい所でも寝れると思う。 寝られ	ここにいればすぐに下りれると思いますが。 下りられ	中央図書館に行けば見れると思うよ。 見られ

39	38	37	36	35	34	33	32	31
<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>	<u>b</u> <u>a</u>
毎日四時だなんて、<u>起きられ</u>、<u>起き</u>れやしないよ。	こんな寒い部屋じゃあ<u>寝られ</u>やしない。 <u>寝られ</u>	いくら急いだってそうすぐには<u>下りられ</u>やしない。 <u>下りられ</u>	こんなに混んでちゃあパンダなんか<u>見られ</u>やしない。 <u>見られ</u>	そんな簡単に<u>来られ</u>ば苦勞はないんだ。 <u>来られ</u>	へんてこでも何でも<u>着られ</u>ばいいんだ。 <u>着られ</u>	あさつての勉強会、<u>出られ</u>ばいいんだが、残念だ。 <u>出られ</u>	毎日この時刻に<u>起きられ</u>ばたいしたものだよ。 <u>起きられ</u>	どんな所でもすぐ<u>寝られ</u>ばいいんだが。 <u>寝られ</u>

48	47	46	45	44	43	42	41	40
b a	b a	b a	b a	b a	b a	b a	b a	b a
あーあ、この服、 <u>着</u> れてよかった。 <u>着</u> られ	最後の授業に <u>出</u> れてほんとにうれしい。 <u>出</u> られ	早く <u>起</u> きれてほんとによかった。 <u>起</u> きられ	今日は十時頃まで <u>寝</u> れて大分疲れがとれた。 <u>寝</u> られ	階段の前で <u>下</u> りれて <u>ち</u> ょうどよかった。 <u>下</u> りられ	その本、意外に簡単に <u>見</u> れてよかったね。 <u>見</u> られ	飛邪ひいているんだから <u>来</u> れやしないだろう。 <u>来</u> られ	いくら引っぱたつて <u>着</u> れやしないよ。 <u>着</u> られ	どんなに頑張ったって <u>出</u> れやしないよ。 <u>出</u> られ

〔被調査者〕

49 $\overbrace{a}$
 $\underbrace{b}$ ひとつ前の電車で来^てて幸運だった。
 来られ

巢鴨学園中学校（私立、東京・豊島区）二年生 94 名（男）

巢鴨学園高校（同右） 一年生 49 名・二年生 77 名・三年生 86 名（男）

— 計 306 名 —

〔方 法〕

〔創作文例〕にかかげた各組（ $a \cdot b$ で一組、全 49 組）について、気のおけない知人・友人たちとのふだんの会話のなかで、可能の意の表現として、 a の言いかた（ $\sim$ レル）を用いるか、 b の言いかた（ $\sim$ ラレル）を用いるかを問い、つぎのような形で回答させる。

A a のみを用いる
 $\overbrace{b} \text{ ②}$

B ともに用いるが a のほうをよく用いる
 $\overbrace{b < a}$

C $a \cdot b$ ともに同程度に用いる
 $\overbrace{b = a}$

D ともに用いるが b のほうをよく用いる
 $\overbrace{b > a}$

E b のみを用いる
 $\overbrace{b} \text{ ①}$

〔表Ⅰ〕

文例番号	A	B	C	D	E	全 体	無回答
イ ナ イ	1	57	62	46	72	69	306
	2	33	55	38	88	91	305
	3	46	69	70	65	55	305
	4	43	67	44	83	69	306
	5	33	69	67	78	57	304
	6	80	91	52	59	23	305
	7	60	80	63	66	34	303
イ タ	8	110	72	28	44	52	306
	9	30	41	39	79	115	304
	10	40	57	52	83	72	304
	11	45	48	44	78	89	304
	12	48	47	40	92	77	304
	13	89	98	47	52	19	305
	14	80	76	64	62	22	304
イ マ ス	15	90	83	30	46	56	305
	16	33	40	39	91	101	304
	17	37	68	64	79	56	304
	18	41	47	44	88	85	305
	19	39	54	51	99	63	306
	20	63	73	68	63	37	304
	21	69	80	53	57	45	304
イ レ ル。	22	109	72	33	40	52	306
	23	40	48	38	82	98	306
	24	45	61	59	82	58	305
	25	38	61	50	80	75	304
	26	36	59	41	102	67	305
	27	68	104	56	53	24	305
	28	73	97	51	58	25	304

調査の結果は、表Ⅰのようであった。

相違による差はあまり明瞭には認められないといつてよからう。それぞれの欄の数値のあいだにはそれほどはつきりした差が見られないし、また、これをとたとえば、Aの欄の数値がaの言いかた(……レル)を専用するといふ回答であることに着目して、この数値が高いほど……レルの言いかたが用いられやすいと考えると、①～⑦各々のグループの順位は、



イ バ	29	97	64	39	59	46	305	1
	30	47	43	28	74	114	306	
	31	45	48	36	89	88	306	
	32	44	49	37	79	96	305	1
	33	34	43	41	105	81	304	2
	34	74	79	40	56	52	301	5
	35	81	80	41	64	39	305	1
イ ヤ シ ナ イ	36	74	80	51	51	48	304	2
	37	59	62	62	66	55	304	2
	38	46	64	58	70	67	305	1
	39	50	71	53	73	57	304	2
	40	44	76	47	82	57	306	
	41	61	72	68	62	40	303	3
	42	63	76	48	60	57	304	2
テ	43	77	64	35	66	59	301	5
	44	47	44	30	77	105	303	3
	45	46	66	36	84	70	302	4
	46	56	62	42	80	61	301	5
	47	45	61	58	80	58	302	4
	48	91	91	36	50	34	302	4
	49	95	74	43	48	38	298	8

〔表Ⅰ〕は、それぞれ、文例1～7が打消の助動詞、ナイ、を下接した場合、8～14が過去・完了の助動詞、タ、の場合、15～21が、マス、22～28が下接語を伴わない……レル……ラレルの形、29～35が接続助詞、バ、の場合、36～42が……ヤシナイとなる場合、43～49が、テ、の場合というようになっているので、各々のグループごとに集計を試みる。そうすると、〔表Ⅱ〕のようになるが、これによって見るかぎり、下接語の

〔表Ⅰ〕

文例番号	A	B	C	D	E	全 体
① 1~7	352 16.5%	483 22.6%	380 17.8%	511 24.0%	398 18.7%	2134
② 8~14	442 20.7%	439 20.6%	314 14.7%	490 23.0%	446 20.9%	2131
③ 15~21	372 17.4%	445 20.9%	349 16.4%	523 24.5%	443 20.8%	2132
④ 22~28	409 19.2%	502 23.5%	328 15.4%	479 23.3%	399 18.7%	2135
⑤ 29~35	422 19.8%	406 19.0%	262 12.3%	526 24.7%	516 24.2%	2132
⑥ 36~42	397 18.6%	501 23.5%	387 18.2%	464 21.8%	381 17.9%	2130
⑦ 43~49	457 21.7%	462 21.9%	280 13.3%	485 23.0%	425 20.2%	2109

となるが、これを、今度は、Eの欄の数値がbの言いかた（……ラレル）を専用するものである点に注目して、この数値が高いほど……レルの言いかたが用いられにくいものと認め、これを逆順位に並べかえることによって……レルの言いかたの用いられやすい順位が表されると考えると、



を得ることとなってしまつて、こうした方法では容易に客観的な序列を見出すことができそうに思われない。それほどに、下接語の相違は……レル・……ラレルの選択にほとんど関与していないもののようにも思われるのであるが、尚、仔細に観察すると、各々のグループの間には、若干の、意味のある差が存しているもののごくにも思われるので、この微妙な差を捉うべく、つぎのような工夫をしてみることとする。

すなわち、A・B・C・D・Eそれぞれの回答を、同じ価値を持つものと見て平板に扱うことをしないで、a（……レル）・b（……ラレル）両方の言いかたが相拮抗するCの回答はそのままとし、AおよびEはこの回答が各々a・bを専用するものであることを重視して実際の数値の三倍の価値を持つものとし、またB（ $\square \vee \square$ ）・D（ $\square \wedge \square$ ）は各々実際の

数値の二倍の価値を有するものとする。そして、aの言いかたの用いられやすさが、AやBの価値（ $\parallel a$ の言いかたの用いられやすい場合）からDやEの価値（ $\parallel a$ の言いかたの用いられにくい場合）をマイナスすることによって表されることを考えて、

$$A \times 3 + B \times 2 + C - (D \times 2 + E \times 3)$$

のような計算を行うこととする。

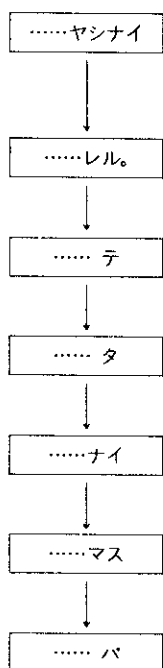
その結果得られた数値は、「表Ⅲ」のごとくであり、これによれば、……レルの言いかたの用いられやすい順序として、

⑥ → ④ → ⑦ → ② → ① → ③ → ⑤

を得るが、これは、すなわち、具体的には、

〔表Ⅲ〕

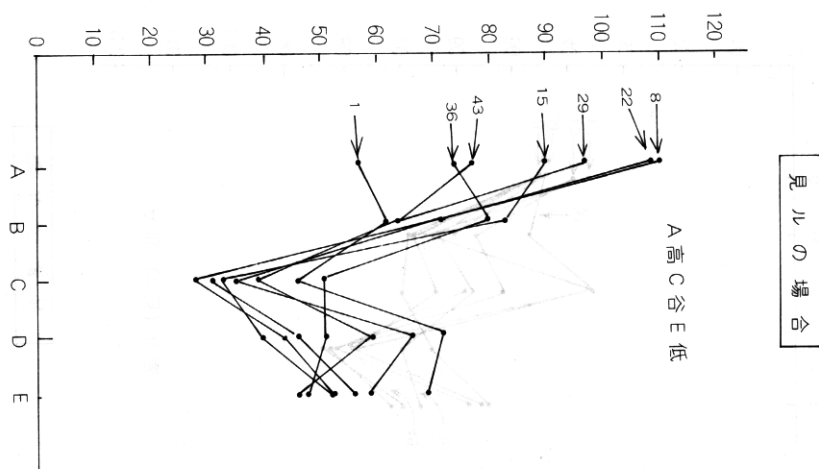
グループ	数 値	順 位
① 1~7	186	5
② 8~15	200	4
③ 16~21	-20	5
④ 22~28	368	2
⑤ 29~35	-260	6
⑥ 36~42	509	1
⑦ 43~49	330	3



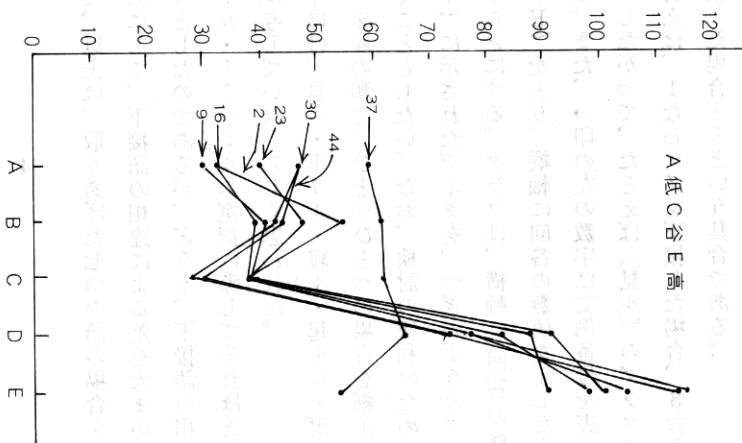
ということであって、下接する表現の相違による差というものがいくらか明瞭に近づいたかと思われる。しかし、これは、あくまで、小異のなかをことさらに穿って垣間見た序列であって、こうした比較には尚慎重であるべきことを忘れてはなるまい。

さて、以上は、取りあげた七つの語の場合をひとまとめにして、下接語の相連による差を大まかに捉えようとしたのであるが、どうも、下接語の相連は、……レル・……ラレルの選択に際してそれほど大きくは関与していないらしく思われた。

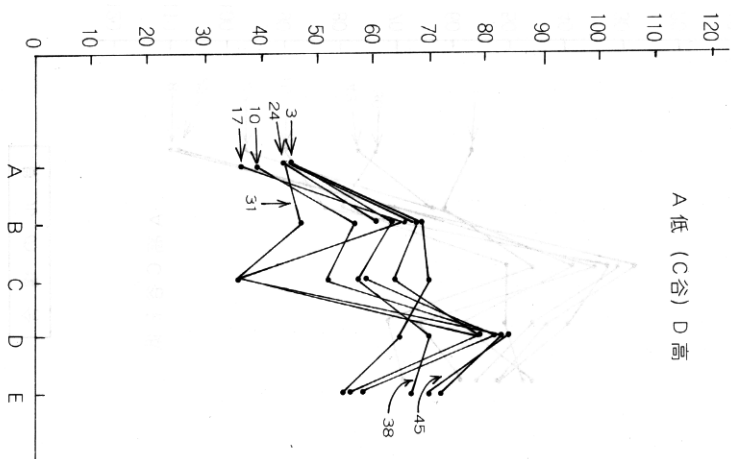
以下には、見ル・下リル・寝ル・起キル・出ル・着ル・来ルの順で、ひとつひとつの場合を細かく見て行くこととしたい。なお、検討の便利のために、「表Ⅰ」に示されたデータを、つぎのようなグラフに表すことにする。グラフは、横軸に回答の種類(A~E)をとり、縦軸に回答の数値を示したものである。また、→印の左の数字は文例番号を表している。したがって、たとえば「見ル」のグラフについて言えば、1ならナイを下接した場合、8ならタを下接した場合……という具合である。



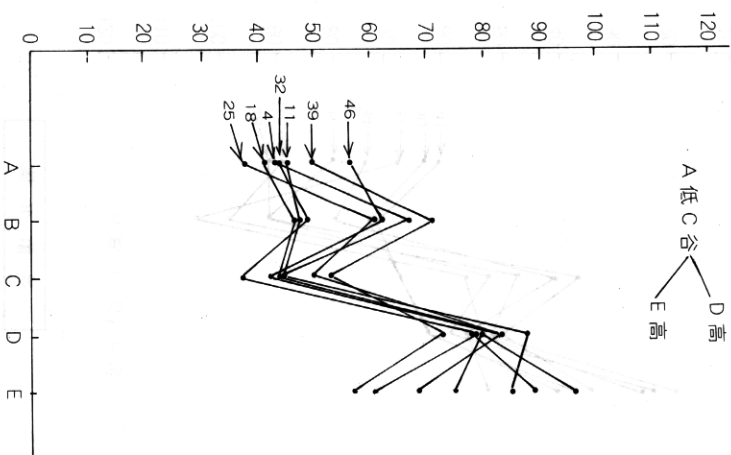
下リル の 場 合



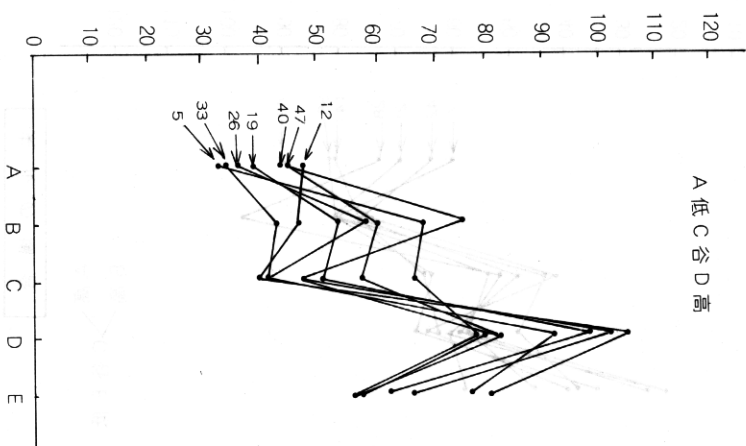
寝 ル の 場 合



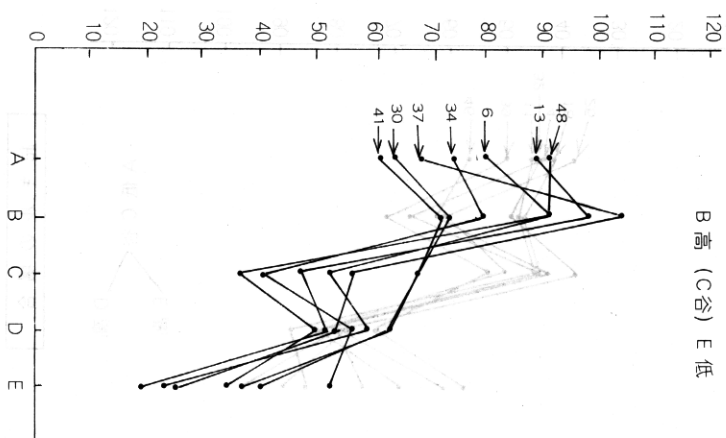
起キルの場合



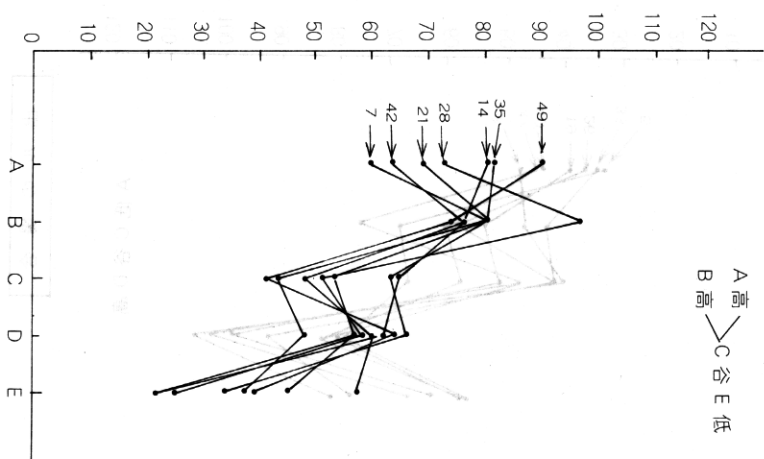
出ルの場合



着ル 場 合



来 ル の 場 合



これらのグラフによって見ると、各々の場合に、下接語の相違が、……レルの言いかたの用いられやすさ・用いられにくさにいくぶんかわっているようでもあるが、しかし、筆者にはこれが、どの程度に意味のある差であるのか容易に断じ得ない。慎重を期してさらに再考したいと思う。

さて、それ以上にはつきりとこれらのグラフから窺われることがある。それは、各々の場合によって、A→Eの数値の分布状態に特徴的なタイプが認められることである。以下、このことについて付言して、稿を終えることとしたい。

まず、ごく大まかに見て、AからEへの流れに、右上りのグループと右下りのグループとのあることが知られよう。

右上りは、下リル・起キル・寝ル・出ルの四つ、いっぽう右下りは見ル・着ル・来ルの三つである。しかも、これは、右下りのほうが、未然形が一音節である上一段活用語（見ル・着ル）とカ変（来ル）であるのに対して、右上りのほうは、未然形が一音節である下一段活用語（寝ル・出ル）と未然形が二音節の上一段活用語（起キル・下リル）ということなのであって、実はこれは、前の稿（前掲『言語生活』の拙稿）で、……レルの言いかたの用いられやすい順位から言うと、右下りの方が各々、二位（見ル）・三位（着ル）・五位（来ル）であるのに対して、右上りの方は各々、六位（寝ル）・七位（出ル）・八位（起キル）・九位（下リル）であるというように、はつきりと両グループの差が認められるかたちになっているわけなのである。

つぎに、やや細かく見てみると、各々のグラフは凡そつぎのようにタイプ分けすることができるであらう。

見ル ——— A高・C谷・E低型

下リル ——— A低・C谷・E高型

寝ル ——— A低（C谷）D高型

起キル — A 低・C 谷・D E 高型
 着ル — B 高 (C 谷) E 低型
 出ル — A 低・C 谷・D 高型
 来ル — B A 高・C 谷・E 低型

〔表Ⅳ〕は、以上を一覧したものであるが、各々のグラフに表れた分布のさまを類型化してみると、それぞれの型が、……レルの言いかたの用いられやすさの度合いと緊密にかかわっていることがはっきりと窺い得ると思うのである。

〔表Ⅳ〕

大まかな高低の型	詳しく見た高低の型	どの動詞についての言いかたか？	『言語生活』稿での用いられやすさの順位
右 下 り	A 高 C 谷 E 低	見 ル	2
	B 高 (C 谷) E 低	着 ル	3
	$\begin{smallmatrix} A \\ B \end{smallmatrix}$ 高 C 谷 E 低	来 ル	5
右 上 り	A 低 (C 谷) D 高	寝 ル	6
	A 低 C 谷 D 高	出 ル	7
	A 低 C 谷 $\begin{smallmatrix} D \\ E \end{smallmatrix}$ 高	起 キ ル	8
	A 低 C 谷 E 高	下 リ ル	9